

特別支援学校教員 スタート・プログラムについて

令和7年（2025年）2月28日（金） 16:00～16:35
北海道立特別支援教育センター
研究員 山口 智也

内容

- 1 目的
- 2 方法
- 3 特別支援学校教員スタート・プログラム
を活用した取組の成果と課題
- 4 今後に向けて

2

1 目的

（1）目的・期間

目 的

「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」を活用した取組を行い、学校における初任段階教員などの経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた取組における効果を検証する。

期 間

令和6年度（1年間） ※令和5年度から継続

4

(2) 令和5年度重点研究から

○ 特別支援教育を担う教員の育成を支える

各道立特別支援学校

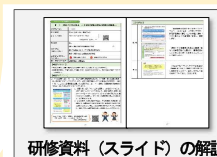
- ・ 特別支援教育を担う教員の育成
- ・ 初任段階教員、経験の浅い教員の学びの保障
- ・ 校内研修の質の向上

特別支援教育センター

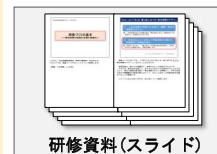
- ・ 学校計画研修の状況や研修の充実にに向けたニーズの把握
- ・ 初任段階教員研修（学校計画研修等）に活用できる「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」の作成

5

特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）



研修資料（スライド）の解説



研修資料（スライド）

【セクションⅠ】 基礎基本の理解度アップ

I-1	障がいの理解
I-2	知的障がいの特性と基本的な対応
I-3	実態把握
I-4	自立活動の指導の基本
I-5	個別の指導計画
I-6	個別の教育支援計画
I-7	教員間の連携
I-8	保護者への対応

【セクションⅡ】 授業力レベルアップ

II-1	授業づくりの基本
II-2	単元の指導計画
II-3	学習評価
II-4	学習指導案の作成
II-5	主体的・対話的で深い学び
II-6	個別最適な学びと協働的な学び

※ I-1～I-6は、研修動画があります。

研修資料（スライド）とその解説を活用して、指導教諭等が研修を実施できます！



★ 対話を通じた学び

★ 研修の方法の工夫

★ 先輩教員の経験談や実践

経験の浅い教員の資質能力の向上

6

(3) 令和6年度の取組

「作成」→「活用・効果の検証」→「活用の促進」へ

指導教諭が実際に活用しやすいか？

研修内容や方法の工夫の意図が学校に伝わるものになっているか？

初任段階教員にとって分かりやすいか？

演習をどのように実施しているか？

プログラムを活用し、成果と課題を確認

プログラムの修正・改善

更新したプログラムを特別支援学校等にお知らせ

学校において

研修の着実な実施

校内研修における主体的な計画・実施

持続可能な取組

人材育成の取組を活性化

7

2 方法

(1) 協力校

- ・北海道余市養護学校しりべし学園分校
〔初任段階教員 1 年次 3 名 ※うち養護教諭 1 名〕
- ・北海道美唄養護学校
〔初任段階教員 1 年次 3 名〕

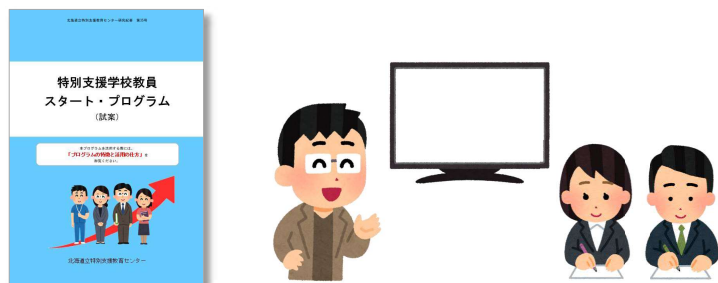
協力校における初任段階教員研修の学校計画研修で、特別支援学校教員スタート・プログラム(試案)を活用して研修を実施し、取組を通してプログラムの有効性を確認するとともに、プログラムの修正・改善点を検討する。



9

(3) 協力校におけるプログラムの活用

- ・プログラムを活用した学校計画研修の実施
- ・プログラムを活用した取組の成果と課題の整理
- ・課題の解決に向けたプログラムの修正、改善点の検討及び特センとの協議
- ・学校計画研修の計画及び実施内容等に係る情報提供



11

(2) 初任段階教員研修（1 年次）

○ 学校計画研修

授業研究を中心に、参観、演習、協議のほか、実践に関する指導、助言、示範等を行い、内容や方法を含め全体の調和がとれたものにする。

「初任段階教員研修（学校計画研修）実施要項」北海道教育委員会

○ 協力校からの聞き取り

初任段階教員が2校目以降にも力を発揮できるよう、資質能力を身に付けてもらいたい。

授業研究の充実を図りたい。

働き方改革を踏まえながらも、研修を充実させたい。



10

(4) プログラムの活用及び効果の検証に関する特センの取組

- ・協力校における学校計画研修の視察
(訪問と遠隔により、計18回実施)
- ・協力校におけるプログラムを活用した研修の計画を「計画・報告様式1※」により集約
- ・協力校における研修の取組状況やプログラムに関する意見、感想等を「報告様式2※」により集約
- ・プログラムの活用状況や修正、改善点等に関する、協力校及び特センの情報交換
- ・プログラムを活用した取組における成果のまとめ
- ・プログラムの修正、改善



※ 「計画・報告様式1」、「報告様式2」は、本取組のために作成、使用したものです。

12

3 特別支援学校教員スタート・プログラムを活用した取組の成果と課題

(1) プログラムを活用した成果と課題

「プログラムの特徴と活用の仕方」を基にした、プログラムを活用した効果を捉える視点

プログラムを活用した取組

- ア 計画段階における活用
- イ 研修の効率的な実施
- ウ 研修の効果を高めるための工夫
 - (ア) 対話を通じた学び
 - (イ) 先輩教員の経験談や実践

成果
・
課題



エ その他に見られた効果

14

ア 計画段階における活用

○ プログラムを活用した計画の立案

北海道余市養護学校しりべし学園分校の例

期 日	研修内容・活用するプログラム
5月	I-3 実態把握～知的障がい～
6月	I-5 個別の指導計画（1回目）
	I-6 個別の教育支援計画（1回目）
	I-8 保護者への対応
7月	I-1 障がいの理解
	I-2 知的障がいの特性と基本的な対応
	I-4 自立活動の指導の基本～知的障がい～
8月	I-7 教員間の連携
	II-1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化～
	II-2 単元の指導計画
9月	II-3 学習評価～評価規準の作成～
	II-4 学習指導案の作成
	II-5 主体的・対話的で深い学び
10月	II-6 個別最適な学びと協働的な学び
	II-1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化（2回目）
	II-2 単元の指導計画（2回目）
初任段階教員の研究授業	
2月	I-6 個別の教育支援計画（2回目）
	I-5 個別の指導計画（2回目）

基礎的な内容を学ぶ

研究授業に向けて

15

ア 計画段階における活用

○ プログラムを活用した計画の立案

北海道美唄養護学校の例

期 日	研修内容・活用するプログラム
6月	I-1 障がいの理解～「障がい」を環境から捉える～
7月	I-2 知的障害の特性と基本的な対応
	I-3 実態把握～知的障がい～
8月	I-4 自立活動の指導の基本～知的障がい～
9月	II-1 授業づくりの基本～1単位時間の授業の目標の明確化～
	II-2 単元の指導計画
10月	II-3 学習評価～評価規準の設定～
11月	II-4 学習指導案の作成
初任段階教員の研究授業	
12月	II-5 主体的・対話的で深い学び
1月	I-5 個別の指導計画
	I-6 個別の教育支援計画

基礎的な内容を学ぶ

研究授業に向けて

16

ア 計画段階における活用

○ 協力校の報告内容から

- ・14の研修資料が盛り込まれた、年間を見通した活用の例が示されていたので、計画の立案に役立てることができた。
- ・研修に掛かる時間や研修資料の分量を目安にして、初任段階教員の年間のスケジュールを踏まえて、研修の日程を設定することができた。
- ・プログラムを基に研修内容を計画することで、指導教諭や研修担当者が柔軟に検討できる余地をもちつつも、一定の水準の研修内容を担保できていると感じた。

成果

「プログラムを活用した学校計画研修の例」や「プログラムの内容」を基に研修を計画することにより、初任段階教員研修の担当部署において、研修内容と時期の意図や見通しなどを確認し、計画の立案を進めることができた。

課題

初任段階教員の配置が1名の学校等において、他校と遠隔（Zoom等）で接続して研修を行うなど、研修の効果的な実施と業務の効率化を図ることができるよう、年間を見通した活用の例に示すことが考えられる。

17

イ 研修の効率的な実施

- 研修の準備や実施に係る課題（令和5年度研究におけるアンケート調査の結果から）

【指導教諭を対象とした質問】

- ・自校の初任段階教員研修において課題であると感じることはどのようなことですか？

⇒研修時間の確保（26.1%）

- ・自校の初任段階教員検収を進めるに当たって、大変であると感じることは何ですか？

⇒研修及び準備の時間の確保（34.8%）



研究紀要第35号「特別支援学校における経験の浅い教員の資質能力の育成にむけた研究」
北海道立特別支援教育センター（令和5年）

18

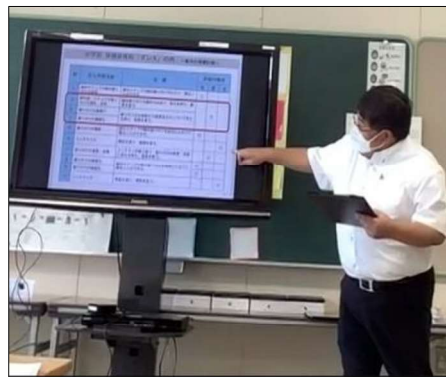
イ 研修の効率的な実施

○ 研修の準備の効率化

中学部 保健体育科「ダンス」の例 ～単元の指導計画～

時	主な学習活動	目標	評価の観点
1	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
2	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
3	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
4	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
5	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
6	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
7	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
8	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
9	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解
10	ダンスの基礎知識の習得	ダンスの基礎知識を理解し、ダンスの楽しさを感じ、ダンスの楽しさを伝える。	知識・理解

これは、単元の指導計画の例です。
単元の目標を踏まえて、1単元時間において育成を目指す資質・能力の観点や評価規準を位置付けています。
単元を計画する際には、1単元時間（身に付けたい資質・能力を明確にするとともに、授業ごとの評価や、単元の目標や関心を踏まえて、どのタイミングでどのような方法で評価を行うか、計画を立てておくことが大切です。
また、単元の指導計画の作成に当たっては、教員が教える場面や子供が考える場面をどこに設定するかということや、どこで知識・技能を身に付け、それを使った学習活動などをどこに設定するか、それまでの学習をどこで振り返るかなど、子供が学習や学習過程をイメージしながら学習活動を組み立てることが大切です。
スライドに示した計画を例にすると、基本となる知識・技能を習得し、振り付けの検討や練習を経て一度発表し、他者との関わりなどから振り返り、2回目の発表まで力を発揮できるようにダンスを改善したり技能を身に付けたりしていくといったように構成されています。
子供が、単元を通して目指すことは何なのか、学習活動に対して目的や見通しを持てるようにすることは、主体的な取組につながります。
この時間は、「思考力、判断力、表現力等」の目標に向けた授業です。生徒のどのような姿を目指した授業が考えられるでしょうか。



研修資料（スライド）を活用した研修の準備と実施

【研修資料（スライド）】

19

イ 研修の効率的な実施

○ 設定した時間での効率的な研修の実施

【セクションⅡ】授業力レベルアップ

Ⅱ-2 単元の指導計画	
実施時期の目安	7～8月
時間の目安	35分（説明15分、演習20分）
説明・配付資料	パワーポイントスライド12枚 研修資料は、こちら →
研修動画	無し
研修の方法（推奨する方法）	説明・演習の両方を指導教諭等が実施 ○ 説明は受講者自身で、演習は指導教諭等が実施
研修の効果を高めるための工夫	★ 対話を通して学び
学校で用意する資料等	単元の指導計画
【研修のねらい】	
・単元における育成を目指す資質・能力の明確化や評価規準を踏まえた学習活動の位置付けについて理解する。	

解説に示された時間の目安を参考に研修を実施

研修のねらいや研修資料（スライド）を基に、説明する内容を事前に確認し、補足する内容を整理

【研修資料の解説】

20

イ 研修の効率的な実施

○ 設定した時間での効率的な研修の実施



説明20分



演習15分

研修実施時間35分

21

イ 研修の効率的な実施

○ 協力校の報告内容から

- ・本プログラムの研修資料を基に、研修資料（スライド）と解説の確認、演習資料（指導略案・個別指導計画など）の事前連絡を行うことで、研修を効率的に実施することができた。
- ・研修資料（スライド）の説明原稿や演習の進め方が整理されており、予定時間内に研修を実施できることが多かったが、演習は目安の時間よりも長くなる場合があった。

成果

プログラムの研修資料（スライド）を活用することで、指導教諭の研修の準備にかかる時間等が縮減し、業務の効率化を図ることができた。

研修資料（スライド）を、説明10～20分、演習20分として作成したことにより、研修内容を焦点化し、研修を児童生徒下校後に1時間程度で実施するなど、効率的な実施ができた。

課題

研修資料の解説に、「時間の目安」を「30分（説明10分、演習20分）」などと明記しているが、実際には予定時間を超える場合があったことから、見通しと実際との差が大きくなるように、幅をもたせた示し方をするなどの修正を必要がある。

22

ウ 研修の効果を高めるための工夫（① 対話を通した学び）

○ 研修の準備や実施に係る課題（令和5年度研究におけるアンケート調査の結果から）

【初任段階教員を対象とした質問】

- ・特別支援学校教員として目指す姿に向けて、どのようなことに取り組むか、考えていることはありますか？

⇒「先輩教員を見て学ぶ」

「先輩教員からアドバイスをもらう」

「周囲とのコミュニケーション」

初任段階教員（1年次）…60.3%

初任段階教員（2年次）…39.0%

23

ウ 研修の効果を高めるための工夫（① 対話を通した学び）

○ 演習で対話を取り入れた研修の取組

生徒の主体的な学びに向けて、どのような工夫が考えられますか？



演習

単元の指導計画を基に、「主体的な学び」や「対話的な学び」、「深い学び」の視点から考えられる工夫を考えてみましょう！

- ・単元を見通して、主体的に学んでほしいと考える授業や子供の姿にはどのようなものがあるか。
- ・そのために、単元や授業において、どのような工夫が考えられるか。
- ・主体的な学びや対話的な学びの視点から考えた工夫は、単元の目標（又は授業の目標）の達成に向けたものとなっているか。

学習活動を工夫して、生徒が興味関心をもって取り組めるようにするとよいと思います。

私が担当している授業では、
・・・しようと思います。

24

ウ 研修の効果高めるための工夫 (① 対話を通した学び)

○ 初任段階教員同士による対話を通した指導方法の検討



【7月の研修の様子】

初任段階教員同士で協議し、動画と研修資料（スライド）で学んだ障がいの特性と担当している児童生徒の様子を関連させて理解を深めながら、自身の関わり方を振り返る。
(初任段階教員が、動画と研修資料を活用して主体的に研修を実施)

25

ウ 研修の効果高めるための工夫(② 先輩教員の経験談や実践)

○ 指導教諭による具体的な説明や実際の経験を加えた研修



初任段階教員の理解が深まるよう、Ⅰ－４「自立活動の指導の基本」の研修で、指導教諭が受講した研修で参考になったスライドを追加して説明



初任段階教員が、説明した内容について実際の授業をイメージして理解できるよう、Ⅱ－１「授業づくりの基本」の研修で、この時期に指導教諭も指導者として入って行っている授業を具体例にして説明

27

ウ 研修の効果高めるための工夫 (① 対話を通した学び)

○ 協力校の報告内容から

- ・スライドの説明の内容と演習が連動しており、演習で「受講者への問いの例」を活用して対話することで、初任段階教員が説明内容を振り返ったり、自分の考えを述べながら思考を整理したりするなどの学びを促すことができた。
- ・研修資料があることで、その内容を基にして指導教諭に質問したり、初任段階教員同士で聞いたりすることができた。

成果

「プログラムの特徴と活用の仕方」や「研修資料の解説」の記載を確認したり、「研修資料（スライド）」の説明原稿に対話を促す説明や具体的な問いを活用したことにより、実際の研修において、初任段階教員同士や指導教諭等との対話が促進され、研修の過程の充実が図られた。

26

ウ 研修の効果高めるための工夫(② 先輩教員の経験談や実践)

○ 協力校の報告内容から

- ・指導教諭が必要に応じて対応例などを加えて説明することで、初任段階教員の理解を深められるよう進めることができた。
- ・ベテランの先生方から、取組事例を基にした具体的な説明を聞いて、実際の指導場面と結び付けて学ぶことができた。

成果

プログラムの内容を基に説明や演習を進めることで、指導教諭が事例や経験を加えて説明する様子が見られ、学校独自に初任段階教員の理解を深める研修の充実を図ることができた。

更なる充実に向けて

初任段階教員（２～５年次）や６年目以降の教員等を交えた研修の機会を設定し、対話を通した学びの充実を図ることが考えられる。

28

エ その他に見られた効果

○ 授業研究の充実

指導案作成前に実施した研修の内容

初任段階教員が作成した
学習指導案の指導計画

2 学習指導案の項目

- 単元名
- 単元について
 - (1) 児童（生徒）の実態について
 - (2) 教材について
 - (3) 指導について
- 単元の目標
- 単元の評価規準
- 単元の指導計画
- 本時の学習
 - (1) 本時の目標と評価規準
 - (2) 本時の展開

「学校教員の平引き 7月～7月」北海道教育委員会（令和5年）

8 単元や題材のまとまりを考える

時	主な学習活動	目標	評価の観点	
			知・技 思・判・表 学	
1	絵のステップや絵の振り付けの練習	絵のステップを覚え、踊ることができる。	○	
2	踊る絵、ステップや振り付けの練習、決定	踊る絵や振り付けの選択や決定で、考えを伝える。意見を言う。		○
3	振り付けの練習①	振り付けの出来栄や変更点などについて考えを伝える。意見を言う。		○
4	振り付けの練習②	絵のステップや絵の振り付けを決めたあとに、踊ることができる。	○	
5	振り付けの練習③	絵のステップや絵の振り付けを決めたあとに、踊ることができる。		○
6	コンテスト①	発表を見て、感想を言う。		○
7	振り付けの変更、改善	コンテストを見て、振り付けの変更、改善を伝える。意見を言う。	○	
8	振り付けの練習④	絵のステップや絵の振り付けを決めたあとに、踊ることができる。		○
9	振り付けの練習⑤	踊ることができる。	○	
10	コンテスト②	発表を見て、感想を言う。		○

5 指導計画（7時間扱い）

時数	日付	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	学
1	10/29	○クイズを通して秋と聞いて思いつくものを考える。 ○秋に旬な食べ物や秋の行事について調べてワークシートにまとめる。	○		
2	11/5	○秋に旬な食べ物や秋の行事について調べてワークシートにまとめる。 ○「芸術の秋」の由来を知る。 ○秋にちなんだ好きな言葉を墨で書く。		○	
単元全体を通じて資質・能力を育成できるように単元計画を作成					
		考える。			○
4・5	11/12	○秋の植物（どんぐりやまつぼっくりなど）を見つけに行く。 ○採った秋を発表する。			○
6・7	11/18	○拾ったどんぐりを使ってどんぐり染めを行う。（1回目）		○	

単元全体を通じて資質・能力を育成できるように単元計画を作成

29

エ その他に見られた効果

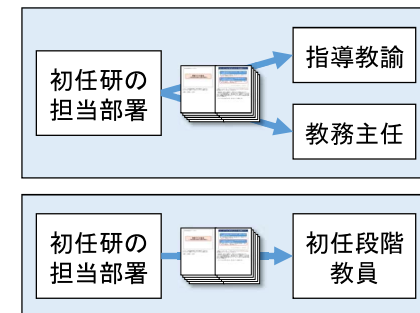
○ 学習指導案の様式の見直し

初任段階教員研修をきっかけに、単元の目標や評価規準の設定、指導計画の記載などの確認、学習指導案の様式の見直しが図られた。

○ 研修の分担・実施のしやすさ

指導教諭のほか、複数の教員で研修を分担している中、研修資料があることで、研修内容や準備の見通しがもちやすく、分担しやすい。

初任段階教員に説明原稿付きの研修資料（スライド）を配付し、日程を設定することで、初任者が動画を活用して主体的に研修を実施できた。



30

(2) 課題解決の方向性

ア 成果

学校における初任段階教員などの経験の浅い教員の資質能力の育成に向けた取組において、「特別支援学校教員スタート・プログラム（試案）」を活用することにより、研修の効率的な実施や研修の効果を高めるための工夫を促進することができた。

イ 課題解決の方向性

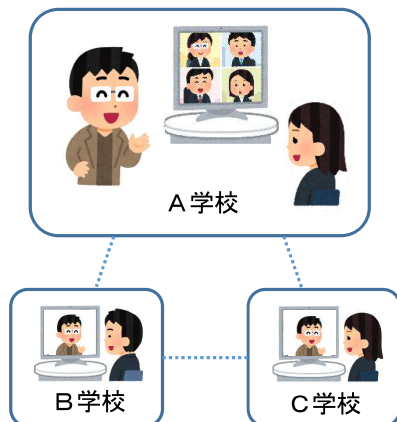
計画的かつ効率的な研修の推進や主体的な研修に向け、説明、演習に係る時間の目安や、研修スライドの順序や説明内容、演習の内容や進め方などについて修正・改善を行い、プログラムの活用の促進を図る必要がある。

31

4 今後に向けて

(1) 研修の方法の拡張性

プログラムを共通コンテンツとして、
複数の学校を遠隔で結び、合同で研修を実施



業務の効率化

対話の広がり

33

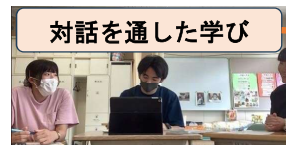
(2) プログラムの活用による効果と教員育成指標

プログラムで学んだことを踏まえて作成した単元計画

単元	日付	主な学習活動	評価の観点
1	10/29	○アイズを通して秋と関わりについて考える。 ○秋にちなみ食べ物や物の行事について調べ、ワークシートにまとめる。	○
2	11/7	○「秋の歌」と関わりについて考える。 ○「秋の歌」の由来を知る。 ○秋にちなみ食べ物や物の行事について調べ、ワークシートにまとめる。	○
3	11/12	○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。 ○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。	○
4	11/18	○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。 ○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。	○
5	11/18	○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。 ○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。	○
6	11/18	○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。 ○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。	○
7	11/18	○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。 ○秋の物語（どんぐりやまつぼっくりなど）を学ぶ。	○

対話を取り入れた演習に取り組む

対話を通した学び



特別支援学校教員育成指標 初任段階教員（抜粋）

求める教員像	キーとなる資質能力	初任段階
教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員	授業力	学習者中心の授業の創造に向け、深い学びにつながる教材研究や学習過程の検討を同僚と共同で行い、 <u>ねらいを明確にした指導計画を作成し、子どもの学習状況を捉えて意図的・計画的に授業を展開している。</u>
	育成に資する力	<u>他の教職員との関わりを大切にし、疑問点や悩みを相談したり、共有し合ったりしながら、互いに高め合おうとしている。</u>



「北海道における教員育成指標」北海道教育委員会（平成29年12月 令和5年3月改訂）³⁴

(3) 研修の充実に向けて

○ 研修観の転換 学びの相似形

NITS戦略（ミッション） ～新たな学びへ～

教職員の主体的な学び

知識や技能をどう活用するか



「NITS戦略～新たな学びへ」NITS独立行政法人教員育成機構（令和6年4月）

35

(3) 研修の充実に向けて

- 教職員の主体的な研修の取組を支える
- 研修の質の向上を図る

特別支援学校教員や初任段階教員研修に限らず、
「特別支援学校教員スタート・プログラム」
をご活用ください。

36